



祝・創立50周年

創立50周年記念事業テーマ

再出発 NEXT 2025
NEW BEGINNING
50th Anniversary

社会福祉法人啓友会は、1975年（昭和50年）5月に南海寮を開設し、この度50周年という記念すべき年を迎えることができました。これもひとえにご利用者様、ご家族や先輩諸兄姉の役員・職員、地域の皆様、関係機関など様々な方達のひとかたならないご尽力やご支援、ご協力のおかげだと思っております。

令和7年度は、50周年を記念したいいくつかの事業を計画しております。テーマを「再出発 ～NEW BEGINNING～」とし、創始の精神を受け継ぎつつも新たな心持ちと決意を持って、事業の充実と地域福祉の推進に取り組んでいきます。

副施設長 松浦 徳彦

昨年度1年間通して東京藝術大学の「DOOR講座」を受講させていただきました。

2023年、天草市と東京藝術大学が「アートと福祉」による島づくりを目指す連携協定を締結しました。連携協定を締結した東京藝術大学では「アートと福祉」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト「DOOR」が実施されており、本看護専門学校の学生さんが参加し、医療・福祉などの当事者が実践者、アーティストの言葉を聞き、多様な視点や認識を学ぶことを目的にスタートしました。初年度は本看護専門学校の生徒さんのみの対象でしたが、2年目は天草市から一般の社会人にも対象を広げると通知があり、受講する運びとなりました。

一般的にアートというと絵画や彫刻等、もの作りというイメージが強くそれが福祉とどう結びつくのか、正直受講前の資料をみても内容の理解が



出来ませんでした。

講義自体はオンラインが中心で看護学生と一緒に年間を通してワークを含め計12回ほど受講いたしました。講師は福祉業界に精通する方や、ファッションブランドに勤めていた経験から福祉業界に飛び込んだ方、目が見えない・耳が聞こえない子供たちが楽団を結成された楽団長の方など様々な業界でご活躍されている方達でした。

私が「DOOR講座」を受講し、一番感じたことは「既存概念にとらわれない考え方、価値観が存在する」という驚きでした。耳が聞こえない人が楽器を持って演奏する。福祉施設でありながら無断外出防止の壁を壊して地域に開放する。といった従来では考え

られない発想でした。昨今、ダイバーシティ(多様性)というワードをよく耳をするようになり、私自身言葉の意味でしか理解していませんでした。しかし、「DOOR講座」を受講し様々な業界や分野でご活躍されている方達が、違う分野の人と一緒に何かを作り上げる、築き上げていく、その姿こそがアートという言葉の意味であることを学ばせて貰いました。

本町保育園交流会

交流会のきっかけは以前からよく知っている園長先生からの電話でした。「今年卒園予定の園児さんの太鼓の演奏がとても上手なので披露する場を設けてくれないだろうか」と連絡があり、こちらとしても有難いお話でしたので、ぜひお願いしたいと返事をしました。初めての本町保育園さんとの交流会でしたので、当日を楽しみにしておりました。

2月26日の当日は園児15名と引率の先生方、当施設の利用者さんや職員だけではなく園児の保護者の皆さんも子供たちの勇姿を見ようと総勢70名以上の方達が集まりました。



演奏前に園長先生より天草太鼓をもとに「なかよし太鼓」という名前で活動されているとご説明があり、全3曲披露して下さいました。園児たちの息の合った演奏と大人顔負けの迫力に利用者さんも手拍子をしたり、座りながらリズムを取られたりされる方もいらっしやいました。何より園児たちの自信に満ちた表情が印象的でした。

短い時間ではありましたが、利用者さんにとっても有意義な時間となりました。今回、演奏していただいた園児の皆さんが小学生になっても違うステージでご活躍されることを期待しています。

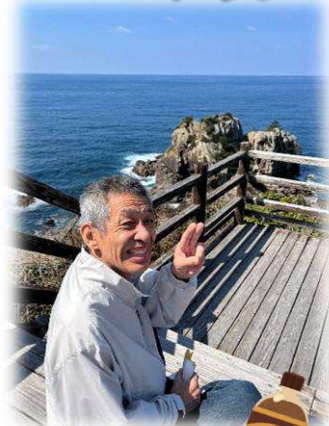
～御大師様お参り～

本町地区の御大師様にお参りにいきました



お餅やおにぎり、お茶をいただきました

～外食・ドライブ・カラオケ～



外出先での
コーヒーは格別です！



キレイな景色だ～！



たくさん歌いました♪



～花見～



～笑顔特集～



+イヌ
スマイル!



Topic! 排泄サポートリフト

導入しました!!

導入に至った経緯:

ある利用者の方の排泄時の移乗介助が大変で、介助を受ける側も辛そうだと職員から意見が上がりました。介助する側、される側ともに安楽に移乗できる方法を模索していたところ、介護用品メーカーから「排泄時の負担を軽減する介助用リフトを試してみませんか?」とお声掛けいただきました。最初はどんな機械か分からず、使ったこともない機械を利用者の方に試す事にとりも抵抗を覚えました。それから紹介いただいたリフトについて調べると共に、メーカーの方に施設に来ていただき、操作方法の指導を受けました。実際に利用者さんに使用していただくと、スムーズに移乗する事が出来ました。職員も「力を入れずスムーズに移乗出来るので良かった。」と好評で、その後の話し合いの末、排泄支援の負担軽減につながるのであればと、導入が決まりました。

今年1月にリフト導入:

導入後初めは装着に時間が掛かり、本当に使い方があっていいのか等、不安な事が多く「やっぱり導入しなくてよかったんじゃないか。」「転倒させてしまうかも。」「自分たちでした方が早いのでは。」との意見もありました。しかし回数を重ねる内に装着や機器の操作もスムーズに出来るようになり、私たちが機器の扱いに慣れると、介助を受ける利用者の方も排泄前後の立ち上がりがスムーズになりました。ご本人に「立ち上がりがしやすいですか?」と尋ねると「うん。よか



メーカー様の説明会の様子

すよ。」と好評をいただき、利用者の方の負担軽減にも繋がっている状況です。以前は一人が前から抱きかかえ、もう一人が後ろから排泄介助を行っていました。その事から腰や足に負担が掛かり、腰痛を発症する職員も少なくありませんでした。そのような経緯もあり、職員の腰痛発症や悪化を未然に防ぐ取り組みとしてリフトを導入し、少しずつ効果を発揮しつつあります。



普段のリフト使用の様子



最後に:

全国の障害者支援施設で重度・高齢化が進んでおり、南海寮(施設入所)も高齢化率(65歳以上の割合)は5割を超え、障害支援区分の平均値は5.6という現状です。支援の度合いが高まる一方で、福祉業界全体で人材不足が深刻な問題となっています。そうした状況下でサービスの質を維持・向上させる為に、介護ロボットやICT(情報通信技術)などのテクノロジーの導入が効果的だと言われています。今回は新たに排泄サポートリフトを導入し、支援する側、される側ともに様々な負担が軽減された事にとりも嬉しく思います。新たな取り組みを行う時は否定的な感情や意見も聞かれます。しかし利用者の方に安心、安全な生活を送っていただく為、また働きやすい職場環境を整えていく為に、今後も職員全員でトライし続けていきたいです。

あいむだより

～NEW お仕事を紹介～

あいむでは昨年からの墓掃除の作業を新たに始めています。

天草市社会福祉協議会からお話をいただき、チャレンジさせていただく事になりました。

【墓地清掃管理サービス事業とは…】

天草市内にお墓をお持ちで、遠方にお住まいの方、身体的な理由やご家族の都合で、大切なお墓の掃除やお墓参りができないなど、墓地の清掃管理にお困りの方に代わって、新たな福祉的視点でソーシャルファームの理念に基づき、NPO団体等と協力して、お墓の清掃や供花を行います。(天草市社会福祉協議会 HP より抜粋)



お掃除するタイミングは好きな時に1度だけという訳では無く、お盆前や年末に作業依頼があり、1つのお墓に対して年に2、3回掃除をする事が多いです。

その時期の作業(お盆前や年末年始、年度末)となると、気温はすごく暑いか、寒いか、になります。外での作業になる為、熱中症警戒アラートや雪、雨等の予報を見て作業を行うか決めていきます。装備についても夏には空調服を購入して作業を行いました。みなさん「ウィーン」とファンが動く服を楽しそうに着ておられました。職員はまだ装備したことはありませんが、ロボットになったかのような感覚はたまらないらしいです。

作業内容は墓地内の除草及び枯葉やゴミ拾い、床の苔をワイヤーブラシで削り取る、手作業による墓石の水拭き等を行います。墓石には金箔を使用されている所が多く、金箔を落とさない様に、法名に傷を入れない様に細心の注意を払って取り組んでいます。

お墓周りは細い道や山道で歩きにくいので掃除道具や水を持つての移動も一苦労です。溶剤を使って1ミリの汚れも見逃さず!といった業者さん顔負けの作業は出来ませんが、作業をする心構えは一緒だと思っています!!作業前と作業後のお参りも忘れずに行い作業終了です。

お墓掃除を始めて一年経ちますが来年も続けていく予定です。



なんかい

南海寮広報委員会

■ご高覧いただき、ご意見・ご感想などありましたら keiyukai@cup.ocn.ne.jp までお寄せください。

■広報誌「なんかい」はホームページ <http://www.nankairyoku.or.jp/> からもお覧いただけます。